

令和元年度 第1回魚沼市総合教育会議 会議録 (要点筆記)

1 日 時	令和元年8月19日(月) 14:56～16:29		
2 会 場	魚沼市役所 小出庁舎 302会議室		
3 出席者 (敬称略)	魚沼市総合教育会議		
	役 職	氏 名	出 欠
	市 長	佐藤 雅一	○
	教育長	梅田 勝	○
	教育長職務代理人	星 麻衣	欠
	教育委員	高橋 昇	○
	"	浅井 誠哉	○
	"	八木 由美子	○
		魚沼市 事務局長 堀沢 淳 子ども課長 広井美智子 管理指導主事 早川政宏 統括指導主事 吉田勇一 学校教育課副参事 佐藤彰弘 事務局 総務政策部長 森山徳裕 秘書広報課副参事 五十嵐誠 (書記)	学校教育課長 斎藤勝浩 生涯学習課長 大桃 明 管理指導主事 吉橋 哲 学校教育課主任 渡邊眞絵 秘書広報課長 森山丈順
4 議事内容	佐藤市長あいさつ 日程第1 子どもたちが魚沼市に住みたいと思えるような教育とは 日程第2 その他		
5 配布資料	(1) 日程及び関係資料		

6 議事

開会

(秘書広報課長) ただ今から令和元年度第1回魚沼市総合教育会議を始めます。出席している事務局については、お手元の資料を以て紹介に替えさせていただくことをご了承願います。それでは日程に従いまして、魚沼市長があいさつを申し上げます。

市長あいさつ

(市長) 定例の教育委員会に引き続いての会議ということで、お付き合いいただきありがとうございます。日頃は各学校で行っている「温かい学級づくりの取組」による「居場所づくり」「絆づくり」に取り組んでいただいていることに、教育委員のみならず、学校教職員、地域の関係者の皆さま方に対してお礼申し上げます。子どもたちを取り巻く環境が、目まぐるしく変化している中で、それにどう対応していくかは大変難しい問題であり、しっかりと取り組みをしなければいけないと思っておりますので、教育委員会活

動の中で掲げられているテーマを行政当局にもお届けいただけたらありがたいと思っております。

千葉県野田市で発生した児童虐待事件は大変悲惨な事件でありましたが、こういった事件はいつ、どこで発生するかわからないので、地域全体で子どもを守り続けていかなければならないと思っております。また、学校内のいじめ対策、障害を持つ児童・生徒の学習環境の整備や通学路の安全対策など課題は多くあると思っておりますので、皆さま方からご検討いただいて、よりよい学校づくり、学級づくりに努めていただけたらありがたいと思っております。

今年度は、普通学級の冷房装置を今年6月までに整備を完了しました。暑さ対策として、子どもたちが学習する環境は整ったものと思っております。また、子ども達の安全対策としては、防犯カメラを設置しました。これにより犯罪の抑止に役立つものと期待しております。今後は通学路にあと1基設置する予定であり、子どもたちの安全対策についてはしっかりと取り組みをしていきます。さらに交通安全対策については、危険箇所をなるべく排除できるように努めておりますので、皆さま方や学校関係者から課題や要望があれば出していただきたいと思っております。

本日はよりよい学校づくり、学級づくりのために意見交換をし、有意義な会議としたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(秘書広報課長) これ以降の進行は、佐藤市長からお願いします。

日程第1 子どもたちが魚沼市に住みたいと思えるような教育とは

(市長) 本日テーマとして掲げているのは「子どもたちが魚沼市に住みたいと思えるような教育」であります。まず事務局から資料の説明をお願いします。

(学校教育課長) (【資料1】ふるさとに関するアンケート〔小学6年生〕〔中学3年生〕(抜粋)を説明)

(市長) 「大人になっても魚沼市に住みたいと思えますか」の回答後に、「なぜそう回答したか」という設問は無かったのででしょうか。

(学校教育課長) これは総合学習の成果を調査する目的でのアンケートでありまして、「なぜ」に相当する設問はありませんでした。「魚沼市が好きか」や、「住みやすいか」という質問に「好き」や「住みやすい」と回答する割合が高かったことで、実施してきた総合学習の内容に一定の成果があったものと判断しています。「魚沼市に住みたい」と回答した人数が「住みやすい」と回答した人数より低下した理由ですが、想像するに都会への憧れや将来の仕事のことを考えたときに、「どちらともいえない」に移ったのではないかと考えています。

(市長) このアンケート結果からは、どういった課題があって、市としてどう改善したらよいのかが直接見えない状況でありますので、まずは皆さま方からどのような感想をお持ちかをお聞かせ願います。

(教育長) 別のアンケート結果ではありますが、子どもたちに「地域行事に参加していますか」という質問には「積極的に参加している」という回答率が高かったのですが、「地域

の課題やこれからの問題について真剣に考えたことがありますか」という質問には「積極的に参加している」という回答率が極端に低く、驚いた記憶があります。子どもたちが地域の将来を考える場に積極的に参加していない現状があると思います。

(委員) 初めて見るアンケート結果ではありますが、小・中学生は学びの過程にあるので「魚沼市が好きだ、住みやすい」という回答率が高い結果を捉えれば、教育の効果はあるのではないかと考えています。「魚沼市に住みたいか」という質問に対して「どちらともいえない」が多いのは、まだ多角的な視点で判断ができる年代ではないと思うので結果はいたしかたないものと思っています。子どもたちには市外、あるいは海外等に一度は飛び出していただいて、価値観の違いなどを実感として体験をして、その上でこの地域を振り返ってみることで客観的な評価ができるのではないかと考えている。

(委員) 自分の子どもも「魚沼市が好きで、住みやすい」と感じているのではないかと感じています。「魚沼市に住みたいか」という質問については、私は一度市外に出てもらって、いろいろなものを見方を経験した上で帰って来てほしいと思っています。一旦市外に出た人たちが帰って来やすいまちにするのは、教育の課題であると思っています。外でいろいろなものを学んだ人に帰って来てもらって、外のいい参考を取り入れた、住みやすいまちを作りたいと思っています。

(委員) 若者が魚沼市に住まないのは、教育の問題ばかりでなく、親子関係などの場合もあると思います。30代の人でもアンケート結果と類似して、「魚沼市は好きだが、働きたい職種がない」というのが現状ではないでしょうか。これは教育でどうにかなるのかと思えるほど難しい問題だと思います。

(副市長) アンケート結果から義務教育期間中に提供される環境やサービスに対して、小・中学生は満足していると思いました。「住みたい」と答える人を増やすには、大人になっても住み続けることを選択してもらうような制度やメリットを市が示せるかが大切だと思います。福祉や住宅環境などより充実したものが求められていると思いますし、若者が就職したくなるような職種の企業の進出や、若者が意欲的に行える農業などへの取組も必要ではないでしょうか。

(市長) このアンケート結果からは市の明確な課題を見出すことはできませんが、なぜ住みたくないのかを聞いてみたいですし、どちらともいえないと答えた子どもには「どうすれば住みたいと思いますか」と聞いてみたいと思います。掘り下げるようなアンケートを行った結果、例えば進学や就職に障害があるなど具体的な課題が明確になれば、市の課題としてどうしたらよいかが見えてくると思います。

(管理指導主事) 小学6年生は尾瀬環境学習を経験し、魚沼市の自然環境の素晴らしさを感じた上でのアンケートであるので、「魚沼市が好きだ」「住みやすい」と答える割合が多いのだと思います。また、中学生ではキャリア教育を受け、具体的な職業を経験した上で職業や将来に対して迷いを抱いている段階であって、その上で「大人になっても住みたいか」という質問に対しては、「どちらともいえない」という回答が多かったのだと思います。

(市長) 少子高齢化が全国的に進んでいる中で、子どもの数を増やすためには親世代を増やすことがどの自治体でも課題となっています。その中で一極集中に歯止めがかかって

いないのは、首都圏には学習環境の選択肢の広さと新卒者の就労の場の多さがあると思っています。この日本全体の課題は急激には変わらないので、魚沼市が好きで住みやすいと感じている人をこれからも増やして、帰って来やすい環境づくりを進め、住みたいと思う人を育てていくことが大切だと思います。子どもたちの感性は育てていくものであると思っていますので、このアンケート結果が下がるようであれば教育の崩壊であったり、様々な要因が考えられると思いますので、今後のアンケート結果にも注意していきたいと思います。また、このアンケートはこの子たちが高校生になってからも取れると、意識の変化を追いかけられると思います。

(教育長) 先日の教育フォーラムのときに、早稲田大学の川村教授から魚沼市の教育に対して指摘されたことは、温かい学級づくりは進んでいるものの、学力的な中間層が伸び悩んでいるという点でした。「何のために勉強するのか」「将来はこれになりたい」という気持ちがグラついている状態の中で、「そこまでしなくてもいいだろう」という気持ちになってしまっているとしたら問題です。少子化が進むほど一人一人が個性を発揮する教育が求められていきます。学校教育では、子どもの将来への思いを膨らませ、学習する意味を感じさせながら学力を伸ばし、その子の可能性を増やしていくべきではないでしょうか。また、8月9日の「私の主張 魚沼大会」の中で、中学2年生が家業の酪農業を継ぎたいという夢があり、時に葛藤しながらも両親の働く姿や酪農で得られる感動を通して、改めて酪農家を目指したいという発表をしていました。その他にも市内には農家である親が代々引き継いできた財産を大切にしたいという思いで農家を継いでいる若者もいます。家庭教育においても親がこの地域の良さを子どもに語って行って、一旦は専門的な勉強をするために魚沼市を離れても、力を持った人材として魚沼市に帰って来てもらいたいと思います。結論としては、子どもたちの学力を伸ばさなければならないと実感しています。

(市長) 子どもは感受性は非常に大事だと思っていますし、その感受性を伸ばしてやる必要があると思います。アリジゴクの観察をしていた子どもが定説を覆す発見をして、その後、研究者を目指しているという話を聞いたことがあります。否定的なものも良くないし、夢の広げすぎも良くないと思いますが、将来の夢を育てていくことができるよう、社会の環境を整えてやるのが大人の役目ではないかと思っています。

(副市長) 夢を実現させていく環境を作りつつ、現実と妥協できる点を示していく必要があります。魚沼市は住んだ際のメリットをまだいくつも見出せると思います。納得して住んでもらえるよう、若者に対する支援や取組が求められていると思います。

(市長) 教育委員会の皆さまと我々とは見方が違うと思いますが、行政からすればこのアンケート結果を受けて、何かきっかけづくりができればと考えています。先生方はこのアンケート結果をどう捉えていますか。

(統括指導主事) 「どちらともいえない」が多いのは、子どもたちが将来に対して具体的なイメージをしにくいためだと思います。もっと「家庭で子どもの将来を語る時間を持ちましょう」と、行政が依頼をするような取組があってもいいのではないかと思います。

(市長) 農業の後継者育成はこの地域の課題であり、親が代々守ってきた農地を別の仕事をしながら守っていく兼業農家のスタイルも大切だと思います。まずはこの地域で仕事を

見つけないと生活が安定しないのではないかと考えています。環境さえ整えば現在市外で生活している方も帰って来てもらえるのではないかと考えています。

(教育長) 農業でも海外をマーケットにする時代であり、先日行った広島平和記念式典への派遣のように中学生時代に国際交流を行って、子どもの心に火をつけるような取組はできないものかと思っています。

(市長) 英語教育の充実・推進は、ぜひ教育委員会で考えていただきたい取組の一つだと考えています。一昨年、香港で行われたフードエキスポに参加してみて、英語教育の大切さを私自身が実感したところです。海外に市場を求めて出ていける人材を育てることがこれからの課題だと思っていますので、ぜひ教育委員会でも検討いただきたいです。

(副市長) 魚沼市ではタブレット端末を使用した情報教育を進めてきましたが、それが学力向上や向学心をかき立てるような教育の中身になっていくことも重要だと思います。

(市長) 通信の発達によって、どこにいても仕事ができる時代になっているので、多様なライフスタイルで過ごしながらも、魚沼市が好きという人から来てもらえたらありがたいと思います。次回このアンケート調査をするならば、大人になっても住みたい地域にするにはどうしたらよいか分かるように、掘り下げた設問を考えていただきたいです。また、「嫌い」「住みにくい」と答えた1%の子どもには、必ず何か理由があると思うので、その意見は重要視しなくてはならないと思います。

(委員) 自由記述欄を設けて、こうなると魚沼市に戻って来たい、住みたいという子どもの意見が見えるとまた違うと思います。また、「魚沼市が嫌い」と答えた子どもの理由が、実は家庭であったり、人間関係であったりするかも知れません。その辺の子どもの声が聴ける工夫がアンケートの設問等にあるといいと思います。

(市長) 「住みにくい」と答えた子どもも、雪の関係なのか、家族関係なのかなど把握しておきたいと思いますので、アンケートの設問等を検討していただきたいです。このテーマで毎年継続して見ていくと、いろいろなものが見えてくるように思います。これからも魚沼市が好きだという気持ちを大事にしながら、行政運営を行っていききたいと思いますし、教育現場でもそのように取り組んでいただけたらありがたいと思っております。

日程第2 その他

(市長) 教育委員会で考えていただきたいことがあります。一つ目は、先ほども申し上げた英語教育の充実・推進です。もう一つは、子どもたちのかけこみ寺的な場所を教育委員会からも強く求めていってほしいという点です。児童相談所の現状では、千葉県野田市のような問題を完全に解決できるとは言えないと思います。福祉分野だけに任せるのではなく、教育分野からも課題として取り組んでいただきたいです。

それから、学校の空き教室についてですが、地域の学習ボランティアが使うようなことはあると思いますが、地域のコミュニティ協議会などが学校の空き教室を利用するのはどうでしょうか。子どもが減って空き教室はこれからも増える見込みであるので、学校教育の邪魔にならないで、空き教室を無駄にしない活用方法があればと思いますので、これから議論が必要ではないかと考えています。

あと、教職員の働き方改革もより良い形を考えていく必要があると思います。たくさ

んの課題がありますが、教育委員の皆さまから検討いただければありがたいと思っております。

最後に、6月27日に発生した広神西小学校のスクールバス事故ですが、乗車していた児童や保護者に対しては大変申し訳なく思っております。警察からは事故の検証結果が届いていない状況ですが、これからの対策をしなければならないと思っております。

(教育長) 先般、南魚沼市で中学生が運転する自転車と車が接触して、中学生が怪我をしてしまうという事故がありました。魚沼市の現状では、中学生は登下校時ヘルメットを着用するのが原則であります。それ以外るときや小学生は着用がありません。魚沼市の子どもはヘルメット着用の意識が低いと思いますので、市P連を通してヘルメット着用の申し入れをしたいと考えております。

(市長) その他に何かございませんか。(なし)

本日の会議を通じて課題が多いのは再認識しましたし、改善できるところは取り組んでいきたいと思っております。教育委員の皆さまにはこれからも多面的に考えていただいて、よりよい学習環境を子どもたちのために整えていただくようお願い申し上げます。

閉会

(秘書広報課長) 以上で令和元年度第1回魚沼市総合教育会議を閉会させていただきます。次回の開催については、現在のところ予定はございませんが、課題等が出てきた場合には改めて会議を設定させていただきますので、よろしくお願いいたします。